後援会だより

第 38 号 2024 年 10 月 31 日発行

編集発行/鹿児島大学法文学部後援会

■本誌の案内■

○あいさつ	○令和6年度後援会総会(第22回)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
後援会会長・・・・・・・・・・・・・・1	○就職状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
法文学部長(後援会顧問)・・・・・・・・・2	○令和5年度決算・令和6年度予算・・・・・・・・・・・・
○ゼミ紹介・・・・・・・・・・・・・・・・2	○令和6年度後援会役員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

後援会会長あいさつ

法文学部後援会会長 奥田 純一



後援会会員の皆様におかれましては、日頃から後援会活動に御理解と御協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

先日行われました総会に おいて、会長として御承認を いただきました。微力ではご

ざいますが、会員や学生の皆様にとってよりよい事業活動ができますよう、精一杯取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、法文学部後援会では、「学生の就職環境」、「学生及び教職員の教育研究活動・福利厚生」及び「学部等の運営・教育環境の整備」等を支援するため、一年をとおして様々な活動を行っています。昨年度も、学生の就職活動に係る旅費の補助や学部の就職支援に係る経費の一部補助、留学する学生への支援や各種ゼミの活動に係る支援等が行われました。

先日行われた総会には、鹿児島県内のみならず、遠くは福岡や佐賀といった遠方からの参加を含めた計38名の保証人の方々が参加され、後援会の活動等について御承認をいただきました。また、後援会からの支援を受けた学生の皆様から、ゼミにおける他大学との交流活動や留学等の実践報告を、また大学側からも、就職活動に向けた学部の取組状況等について詳しい御報告をいただきました。

自分の大学生活を振り返ったとき、もっと色々なことに取り組んでおけばよかったと思うことがあります。学生の皆様には、大学生活の中でしかできないことに積極的に取り組んでいただきたい。モラトリアムの時期に、色々なことにチャレンジして、自分の人間としての幅をもっと拡げていただきたい。そのためにも、後援会によるさまざまな補助は、とても有効な手段であるとの思いを、総会における各種報告を拝見しながら、より強くしたところです。

学生の皆様への支援を充実させるためには、後援会の入会者数をこれまで以上に増やしていく必要があります。もっと多くの皆様に、後援会の趣旨と事業内容を御理解いただき、御入会いただくことで、より多くの学生の皆様に支援を届けることが可能となります。

会員の皆様におかれましては、ぜひ一度、法文学部後援会のホームページを御覧いただき、さまざまな機会に、周りの方々に対して後援会の活動について広報していただき、学生支援の輪を更に拡げることができるよう、御協力をお願いいたします。

さて、年1回開催される総会は、事業活動の方向 性を決める重要な機会です。もっと多くの方々に御参 加いただき、よりよい事業運営に向けた御意見を賜り たいと考えています。さらに、総会の後に行われる懇 親会は、先生方や他の保証人の皆様と情報交換がで き、お子様の学生生活の一端を垣間見ることができ る、大変貴重な得難い機会です。皆様におかれまし ては、是非、来年行われる総会に御出席いただきま すようお願い申し上げます。

学生の皆様が新しい社会を創り出していく一助となれるよう、後援会を一緒に盛り上げていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

法文学部長あいさつ

法文学部長(後援会顧問) 藤内 哲也

令和6年4月より法文学 部長となりました藤内哲也 です。法文学部後援会会員 の皆様には、日頃より法文 学部・人文社会科学研究 科・臨床心理学研究科の教 育・研究活動に対して、多 大なるご支援を賜り、心よ り感謝申し上げます。



さて、法文学部・人文社会科学研究科では、現 在ほとんどの授業が対面で実施されています。本 学郡元キャンパスには多くの学生が集い、コロナ 禍以前とほぼ同様の活気ある光景が戻ってきまし た。他方で、学生・教職員ともにコロナ禍の間に 培った遠隔授業等のスキルにより、授業やゼミ、 面談等を実施するための選択肢が増え、学生や教 員の状況に応じた柔軟な対応が可能となった面も あります。実際に学部や研究科で開催される会議 の多くはオンラインで実施されるようになり、教 職員の負担が軽減されるとともに、資料のデータ 化による印刷物の削減にもつながっています。未 曾有の経験を糧として、単に災厄前に戻るのでは なく、教育研究の多様な場面でさまざまなツール をうまく活用して、より充実した教育環境の整備 につながればと考えています。

また、10月5日に開催されました後援会総会では、38名の会員と21名の教職員の参加を得て、後援会の事業や予算についてご審議いただいた後、本会の支援を得て学会参加や海外留学を果たした3名の学生による成果発表が行われました。会員24名、教職員23名が参加した懇親会では、会員と教員の間での率直な意見交換や会員間での和やかな歓談の様子が見られました。ご多忙のところご参加いただいた会員の皆様に心からお礼を申し上げますとともに、次年度はさらに多くの会員の方々にお会いできることを願っております。

後援会からの補助による重要な事業の一つに、 学生の就職活動支援があります。今年度より、新 任の就職支援アドバイザーとして、法文学部の卒 業生で鹿児島県庁職員として活躍された灰床義博 氏をお迎えしました。豊富な社会経験と県内自治 体や民間企業との緊密なネットワークを活用して、 積極的に学生の就職活動の相談に乗ってくださり、 さっそくいくつもの成果が上がっています。

そのほかにも、後援会には学生の教育研究活動 や就職活動を支えるさまざまなご支援をいただい ております。今後とも法文学部・人文社会科学研 究科・臨床心理学研究科の教育研究活動について、 ご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し 上げます。

ゼミ紹**介** 法文学部人文学科心理学コース

法文学部准教授 平田 祐太朗

教育・学校心理学ゼミでは、子どもや家族を取り巻く様々な心理学的テーマ、並びに心理的な支援を必要とする子ども、その保護者や支援者を対象とした心理支援やそのシステムについて研究を行っています。特に、不登校やいじめなど教育現場における課題、そしてスクールカウンセラーなどの教育領域における心理専門職や、発達障害を持つ子どもとその家族への支援について、より良い理解と支援のあり方を模索しています。

教育・学校心理学ゼミ

学生たちは、心理学を学んだ成果を集大成として2年間をかけて卒業研究を執筆します。卒業論文の執筆では、可能な限り自身の興味や関心を見つけ、それを整理し調査を行うことを重視しています。過去には、「スクールカーストとInstagramの関連性」「言語とパーソナリティの関係」「中学時代の部活動における挫折経験とソーシャル・サポートの関係性の検討」など、多岐にわたるテーマで卒業論文が作成されました。

また、ゼミの特色として、毎年度様々な現場での心理支援に関わる取り組みに参加し、体験的な学びを行っています。昨年度は臨床心理学ゼミとの合同で「こころとからだのワークショップ」を開催し、こころとからだに働きかける心理支援のアプローチを実際に体験しました。今年度は学外からゲストスピーカーを招き、社会課題に関する学びを深める場を設けたり、児童発達支援施設で子どもと関わるボランティア活動を実施しています。また、後期には、不登校の児童・生徒が学ぶ教育支援センターを訪問する予定です。特に実践的な体験や学びを通して、対象者やその関係者の

理解を深めることを目指しています。

ゼミの卒業生たちは、学んだことを活かして一般企業や公務員として活躍するほか、心理職を目指して大学院に進学する学生もおり(例:鹿児島大学大学院、九州大学大学院など)、多様な進路を選択しています。



こころとからだのWSの様子

た。また、会員の皆様からは「大変有意義な時間を過ごすことができました。」、「また来年も参加します。」と有難いお言葉を頂戴いたしました。皆様のおかげをもちまして、令和6年度後援会総会は盛況のうちに閉会いたしました。来年もたくさんのご出席をお待ちしております。



他大学合同ゼミ報告

令和6年度後援会総会(第22回)

令和6年10月5日(土)に第22回法文学部後援会総会が開催され、保証人・教職員等あわせて59名が出席しました。総会では、藤内学部長による挨拶の後、①会長および役員の選出、②令和5年度事業報告(案)、③令和5年度決算および監査報告、④令和6年度事業計画(案)、⑤令和6年度予算(案)について審議が行われ、原案通り承認されました。

次に報告事項として、竹岡常任理事から令和6年度法文学部後援会への入会状況が説明されました。続いてキャリア形成支援委員長から昨年度の就職状況について報告が行われました。その次に臨床心理学研究科の概略について研究科長から紹介がありました。

最後に、後援会が行う教育研究活動への支援事業に関する理解を深めていただくため、支援を受けた学生たちが活動体験報告を行いました。今年度は、法経社会学科学生2名・人文学科学生1名による「他大学合同ゼミ報告」・「留学体験報告」が行われました。パワーポイントを効果的に使用した報告で、学生の日頃の学習・研究の様子がよく分かるものでした。

総会終了後の懇親会には、保証人・教職員あわせて47名の参加があり、大学生活や教育内容、就職状況等について、活発な情報交換が行われまし



留学体験報告



留学体験報告



おかげさまをもちまして鹿児島大学法文学部卒業生の就職状況は引き続き好調であり、令和5年度(2024年3月)卒業生。以下「R5年度卒業生」と略称する)の就職率は95.9%でした(表1)。

これを地区別の就職状況で見ますと、鹿児島県内での就職が35.8%であり、九州・沖縄地区(鹿児島県を除く)が31.2%、関東が21.3%と続きます(表3)。

産業分類別では、公務員(教員を除く)が110人と圧倒的に多く、R5年度卒業生の34%を占めます。民間企業でR5年度卒業生の就職が多かった分野は、卸売・小売業(12%)、情報通信業(11.7%)、サービス業(10.5%)でした(表2、表4)。なお、必ずしも卒業後すぐに公務員や民間企業へ就職する学生ばかりではなく、大学院へ進学する学生や、次年度以降の公務員・教員採用試験受験を目指す学生もおります。

法文学部では、各種の資格(中学校・高等学校教諭、学芸員、公認心理師、社会福祉主事、社会教育主事など)取得のために必要な授業が多数開講されております。また、法文学部では全学のキャリア形成支援センターと連携しつつ、各学生の進路構築をサポートしています。具体的には、各種の就職ガイダンスや就職・キャリア支援セミナーなどを開催し、学生の様々な業種へのチャレンジを後押ししています。法文学部1号館1階には就職支援室があり、就職に関する個別の相談にも応じています。

近年、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップ推進にあたっての基本的考え方」が改正され、一定の基準を満たしたインターンシップで企業が得た学生情報を、広報活動や採用選考活動に使用できるようになりました(令和7年3月に卒業・修了する学生が、令和5年度に参加するインターンシップから適用)。そうしたこともあり、学生のインターンシップ参加への関心が高まっています。鹿児島大学では、(株)ディスコが運営する「キャリタス UC」(全国の約730校、81,000社が利用する求人票配信システム)上で、鹿大生を対象としたインターンシップ情報を公開しています。また、本学では鹿児島県内の企業等とも連携した「かごしま課題解決型インターンシップ」という取り組みも行われており、昨年度は法文学部から25名ほどの参加者があったと聞いています。こうした全学でのキャリア形成支援に関する情報は、今後とも法文学部の学生に適宜提供していきたいと考えております。

なお、法文学部では、4年生に対して年に数回「進路状況調査」を実施しております。学生が自分の進路 を確認したり、大学が学生をサポートしたりする上で重要な調査ですので、保証人の皆様からも回答を促し ていただければ大変ありがたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 令和5年度卒業者の就職率 (令和6年5月1日現在)

学 科	法経社会学科	人文学科	合 計
就職希望者数	203人	135人	338人
就 職 者 数	196人	128人	324人
就 職 率	96.6%	94.8%	95.9%

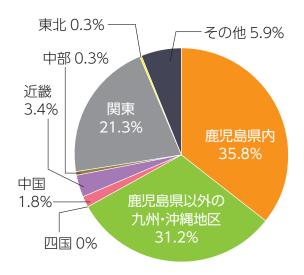
※各学科には平成28年度入学以前の旧学科学生を含む

2. 令和5年度卒業者の公民別就職内定者数(令和6年5月1日現在)

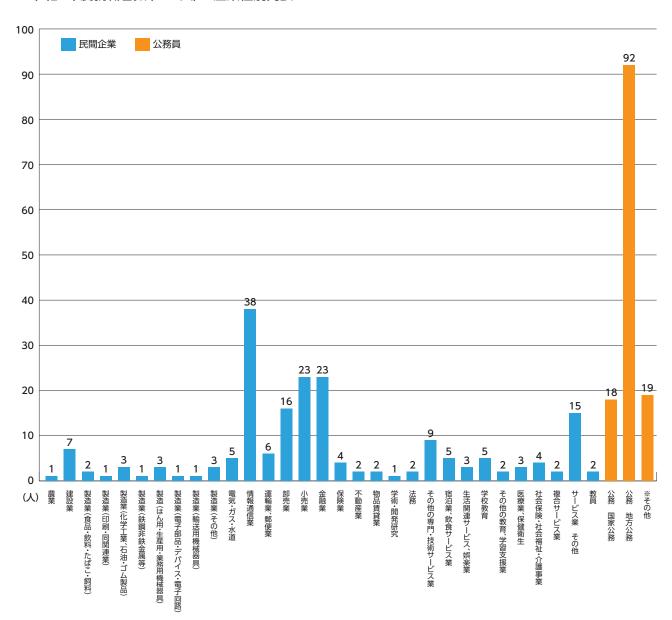
# D			法経社会学科		人文	学科	合 計		
	学 科			男	女	男	女	男	女
公	矜	Ž	員	35人	39人	5人	33人	40人	72人
民	間	企	業	74人	48人	21人	69人	95人	117人
合			計	196人		120	3人	324人	

※各学科には平成28年度入学以前の旧学科学生を含む

3. 令和5年度卒業者の地域別就職状況



4. 令和5年度就職者数(324人)の産業種別内訳



令和5年度決算・令和6年度予算

【令和5年度 法文学部後援会決算】

会計期間:令和5年4月1日~令和6年3月31日(単位:円)

			予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	概要
	1	本年度収入総額(A+B+C+D)	5,947,000	5,762,856	-184,144	
1157	Α	正会員会費	5,235,000	5,215,000	-20,000	正会員数×5,000とほぼ一致
収入	В	特別会員会費	512,000	416,000	-96,000	教職員加入者数×8,000円
項	С	賛助会員会費	0	0	0	同窓会員会費
	D	雑収入	200,000	131,856	-68,144	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息
	2	前年度執行残余	10,553,926	10,553,926	0	前年度決算の執行残余金額と一致
	(1)	本年度執行可能額合計(①+②)	16,500,926	16,316,782	-184,144	本年度支出しても次年度以降の突発的な返還に支障のない金額
	3	事業費(a+b+c+d+e)	5,858,590	3,638,752	-2,219,838	
	а	学生の就職環境に関する事業	2,036,360	1,442,344	-594,016	就職支援室運営費、就職セミナー・講演会経費、就職ガイダンス参加学生交通費補助等
	b	学生及び教職員の教育研究活動に関する事業	2,136,270	716,981	-1,419,289	学生の国内外実習・研修旅費補助、留学単位修得支援、大学院生の学会発表支援等
l	С	学生及び教職員の福利厚生に関する事業	35,000	17,500	-17,500	学生レクリエーション行事経費補助等
支出	d	学部等の運営・教育環境の整備に関する事業	921,600	548,967	-372,633	学部長と学生との懇談会経費、卒業生・修了生卒業祝賀会経費支援等
項目	е	その他本会の目的を達成するために必要な事業	729,360	912,960	183,600	保護者と教員の歓談会、後援会だより印刷費、新入生オリエン テーション実施経費等
	4	事務運営費	1,366,200	1,362,354	-3,846	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	(5)	会議費	458,400	453,298	-5,102	懇談会経費(参加者から徴収)、後援会総会のお茶代等
	6	予備費	200,000	132,825	-67,175	
	(2)	合計(③+④+⑤+⑥)	7,883,190	5,587,229	-2,295,961	本年度執行金額
((3)	本年度執行残余(1)-(2)	8,617,736	10,729,553		期末執行残余
((4)	本年度未返還準備金	8,500,000	8,900,000		本年度解散があった場合にも返還に支障のない最低準備金
次全	丰度繰起	或額((3) + (4))	17,117,736	19,629,553		期末通帳残高と一致するべき金額

[※]返還準備金とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

【令和6年度 法文学部後援会予算】

会計期間:令和6年4月1日~令和7年3月31日(単位:円)

			令和6年度予算	令和5年度予算	前年度差額	概要
	1	本年度収入総額(A+B+C+D)	5,962,000	5,947,000	15,000	
1157	Α	正会員会費	5,250,000	5,235,000	15,000	正会員員数×5,000円とほぼ一致
収入	В	特別会員会費	512,000	512,000	0	教職員加入者数×8,000円
項	С	賛助会員会費	0	0	0	同窓会員会費
目	D	雑収入	200,000	200,000	0	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息
	2	前年度執行残余	10,729,553	10,553,926	175,627	前年度決算の執行残余金額と一致
	(1)	本年度執行可能額合計(①+②)	16,691,553	16,500,926	190,627	本年度支出しても次年度以降の返還に支障のない金額
	3	事業費(a+b+c+d+e)	5,751,168	5,858,590	-107,422	
	а	学生の就職環境に関する事業	1,984,208	2,036,360	-52,152	就職支援室運営費、就職セミナー・講演会経費、就職ガイダンス参加学生交通費補助等
	b	学生及び教職員の教育研究活動に関する事業	1,950,980	2,136,270	-185,290	学生の国内外実習・研修旅費補助、留学単位修得支援、大学院生の学会発表支援等
支	С	学生及び教職員の福利厚生に関する事業	35,000	35,000	0	学生レクリエーション行事経費補助等
出	d	学部等の運営・教育環境の整備に関する事業	965,600	921,600	44,000	学部長と学生との懇談会経費、卒業生・修了生卒業祝賀会経費支援等
項	е	その他本会の目的を達成するために必要な事業	815,380	729,360	86,020	保護者と教員の歓談会、後援会だより印刷費、新入生オリエンテーション実施経費等
	4	事務運営費	1,489,200	1,366,200	123,000	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	(5)	会議費	552,000	458,400	93,600	懇談会経費(参加者から徴収)、後援会総会のお茶代等
	6	予備費	200,000	200,000	0	
	(2)	合計(③+4+5+6)	7,992,368	7,883,190	109,178	本年度執行予定金額
(3)	本年度執行残余(1)-(2)	8,699,185	8,617,736		期末予定執行残余
(4)	本年度末返還準備金	8,900,000	8,500,000		本年度解散があった場合にも返還に支障のない最低準備金
次全	F度繰起	或額((3) + (4))	17,599,185	17,117,736		期末通帳残高と一致するべき金額

- ※1 予算資料作成時点での既知の数値を活用。期中に加入があった学生の会費については前年度執行残余の活用によって調整する。 ※2 返還準備金とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

■■■ 令和6年度後援会役員一覧 ■

副 会 長:前園 貴子 会 長:奥田純一 顧 問:藤内哲也 常任理事: 竹岡 健一

理 事〔保証人・社会人学生(本人)〕:

(法経社会学科) 奥田 純一、猩々 智子 (人文学科) 平田 美保子、安永 信一 (人文社会科学研究科) 角 祥平 (臨床心理学研究科) 前園 貴子

理 事〔教 員〕:

(法経社会学科) 齋藤 善人、農中 至 (人文学科) 飯田 昌子、石田 智子 (臨床心理学研究科) 廣瀬 幸市

監 查: 稗村 孝浩、呉 博宇

監事:勇宗一郎

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話099-285-7510 (7602) FAX 099-285-7609 E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp 後援会ホームページ http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/